

# 情熱と やりがい

Passion & Worthwhile



ORICONSUL 創刊号 2013年10月発行 株式会社オリエンタルコンサルタンツ 本社 〒151-0071 東京都渋谷区本町3丁目12番1号 住友不動産西新宿ビル6号館 TEL.03-6311-7551 (代) FAX.03-6311-8011

## 編集後記

たくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。



GC事業本部  
軌道交通技術部 プロジェクト部長  
阿部 玲子さん ▶17 ページ  
インタビューの時間がインド時間の朝7時半! 半寝ぼけていたかも…。



SC事業本部 九州支店  
技術部 副主幹  
緒方 剛さん ▶19 ページ  
取材を受けることで、改めてこれまでを振り返ることができ、良かったです。



SC事業本部 東北支店  
技術部 技師  
柿元 拓史さん ▶17 ページ  
まだまだ新人ですが、熱意と誇りを持ってこれからも頑張ります!



SC事業本部 関東支店  
都市地域創生事業部門 交通技術部 副主幹  
後藤 秀典さん ▶10 ページ  
後輩に技術を繋ぎ、交通のブランドを維持できるように頑張ります。



GC事業本部  
道路計画部 課長  
小西 知行さん ▶11 ページ  
いつも通り過ぎた景色で無関心でいることの自由さを教えてくれる。そんな会社、OC。



SC事業本部 東北支店  
副支店長 兼 事業企画部長  
佐藤 雅樹さん ▶21 ページ  
「元気」「やる気」「勇氣」「本気」で情熱やがりがPJ推進します!



GC事業本部  
営業部  
鈴木 諭さん ▶19 ページ  
人材育成は組織の根幹。教えることを通じて教えられることもある。私もまだまだ成長していくぞ!



SC事業本部 関西支店  
技術一部 担当次長  
高根 努さん ▶16 ページ  
取材日は、暑い中、ジャケット着用で、さみしい集合写真になったらと不安でしたが、また、良い経験でした。



GC事業本部 都市地域開発部  
防災・観光開発グループ長  
高橋 亮司さん ▶13 ページ  
慣れないインタビューを受けたので結構固かったかも。外での写真撮影は、恥ずかしいよね。



SC事業本部 関東支店  
都市地域創生事業部門 交通技術部 技師長  
辻光弘さん ▶19 ページ  
技術者が水準の高い仕事をするには既成の概念を打ち破る自由な発想が必要です。情熱とやりがいを持って、「生き甲斐」を見つけよう。



SC事業本部 九州支店  
技術部 技師  
土谷 安司さん ▶14 ページ  
この冊子を嫁と子供に見せて父親の威厳を取り戻したいと思えます。



SC事業本部 関東支店 保全防災事業部門  
副部門長 兼 河川港湾部 部長  
中尾 毅さん ▶21 ページ  
河川港湾部のチームワークを牽引しているお二人。実はこのお二人こそが「影のリーダー」かも?!



SC事業本部 総合マネジメント事業部 担当次長 兼  
株式会社オリエンタル群馬 代表取締役社長  
中埜 智親さん ▶09 ページ  
「未来と地域と共に」というオリエンタル群馬をもとに地域で考え地域にあった地域活性化事業を推進します。



SC事業本部 中部支店  
副支店長 兼 事業企画部長  
長屋 定政さん ▶12 ページ  
20年近く前のことを思い出し、こんなに仕事だったと再認識できました。ありがとうございます。



SC事業本部 九州支店  
技術部 副主幹  
西 大輔さん ▶14 ページ  
取材を受けて、たくさんの人に支えられた業務だったと再認識できました。ありがとうございます。



SC事業本部 関西支店  
技術二部 技師  
西ノ園 ちえみさん ▶19 ページ  
取材とか初めて受けたので緊張しましたが、結構楽しかったです。ありがとうございました。



GC事業本部  
業務管理部 課長  
長谷川 靖典さん ▶03 ページ  
SCは集合写真中心、GCは個人写真中心というのは、とても象徴的だと思いました。



SC事業本部 中部支店  
技術部 技術主査  
松井 祐樹さん ▶17 ページ  
人物が見える冊子になったと思います。是非ご家族の方々にも読んでもらいたい。



SC事業本部 関西支店  
技術一部 担当次長  
三住 泰之さん ▶16 ページ  
正直、最中は面倒でしたが、表彰ももらえたと報われました。もらえなかったらどうだったんでしょうね?



SC事業本部 中部支店  
技術部 次長  
水野 耕治さん ▶03 ページ  
座談会が予想以上に盛り上がり、楽しい時間を過ごせました!



SC事業本部 東北支店  
技術部 技師  
三谷 祐一郎さん ▶07 ページ  
コンサルについてもっと知りたいことがあれば私まで! 若手目線で率直に答えます (笑)。



GC事業本部  
建築開発部 次長  
宮武 一弘さん ▶15 ページ  
「何で? 自分が?」と思いましたが、自身の業務を見つめ直す良い機会となりました。



SC事業本部 関東支店 震災復興推進室 次長 兼  
プロジェクト開発部 次長  
森 隆信さん ▶03 ページ  
面白くやれば良い!



SC事業本部 関西支店  
技術一部 技師  
矢野 修平さん ▶03 ページ  
過去の自分を振り返る良い機会になった。さて、仕事しよ。



GC事業本部  
地球環境部  
渡津 永子さん ▶03 ページ  
出席者の皆さんのおかげで、座談会は本当に楽しかったです。

# 情熱とやりがいこそ、 真に魅力ある企業へ 成長するための原動力!!

役員と家族が豊かさを実感し、  
個が成長し、企業が成長する。

我が社の経営計画「I-Plan」では、  
このような好循環を生み出すことで、

真に魅力ある企業に成長していこうとしています。

そして、その好循環を生み出す原動力こそ、

役員一人一人の情熱とやりがいです。

このたび、この情熱とやりがいをさらに高める

『情熱とやりがいプロジェクト』を

始動しました。

我が社は、創立50年以上の歴史の中で、

自由闊達で、チャレンジ精神に富んだ

企業風土を築き上げてきました。

さあ、『情熱とやりがいプロジェクト』を通して、

役員一人一人の情熱とやりがいを結集させ、

真に魅力ある企業に向かって、

力強く前進していきましょう。

オリエンタルコンサルタツの主役は、

あなたです!!



## Contents

### 情熱座談会

03 私の情熱とやりがい、OCの魅力

### 私とシゴト

- 07 【復興】三陸沿岸道路設計
- 08 【鉄道】マニラLRT 1号線拡張整備プロジェクト【フィリピン】
- 09 【事業経営】群馬県立敷島公園の指定管理事業
- 10 【交通】大橋JCT交通安全対策
- 11 【道路】ハノイ市環状3号線道路施工監理業務【ベトナム】
- 12 【橋梁】徳山ダム橋梁 予備設計・詳細設計
- 13 【防災】テヘラン地震災害軽減プロジェクト【イラン】
- 14 【防災】九州北部豪雨災害対応
- 15 【建築】キンシャサ保健人材センターおよび国立職業訓練校整備計画【コンゴ民】
- 16 【多分野】設計便覧改訂資料作成【共通・道路・河川・機械・電気通信】

### 成長のキセキ

- 17 “技術”と“想い”の伝承  
海外研修を通じた成長のきっかけ  
海外における品質管理の徹底  
尊敬する先輩から吸収
- 19 発注者をリードするコンサルタントとしての姿勢  
若手の中心となり活躍する女性技術者  
基礎技術の重要性  
海外事業の営業力強化

### チーム力向上委員会

- 21 メリハリつけた施策  
主導型ビジネスへ向けた勉強会の実施
- 22 特定地域の文化を知る  
「個」から「チーム」へ

## 情熱座談会



# 私の情熱とやりがい、OCの魅力

OC（オリエンタルコンサルタンツ）では『情熱とやりがいプロジェクト』が始動しました。創刊号では、プロジェクトの推進メンバーの中から7名が集まり、自らの情熱とやりがいやOCの魅力、プロジェクトにかける思いを語っていただきました。

□ 出席者（写真左手前から時計回り）

長尾 一輝、渡津 永子、水野 耕治、森 隆信、長谷川 靖典、住吉 祐志、矢野 修平

### 『情熱とやりがいプロジェクト』とは？

長期間就業からの脱却と、情熱とやりがいの醸成を目的に、以下のような施策を推進しています。

- |            |                |
|------------|----------------|
| ① 社員数の増員   | ⑤ やりがいづくり・見える化 |
| ② 就業環境の改善  | ⑥ 人材育成の強化      |
| ③ 品質の確保    | ⑦ チームづくり       |
| ④ 業務処理の効率化 | ⑧ 処遇の改善        |

「コンサルタントとして、自らの夢を実現。OCが持つ本来の魅力を再認識する。」

みなさんがコンサルタントを目指した理由や、仕事のやりがいについてお聞かせください。

**長尾** 鉄道やバスなど交通に関心があり、大学では土木系の学部に進学。交通の研究室で学んでいた時、コンサルタントの仕事に出会いました。ターニングポイントになったのは、入社3年目。幹線道路にバイパスを整備した効果を検証し、対外的に公表するという業務でした。東北支店に所属していたのですが、人員が足りないという理由で急きょ東京へ。発注者と、初めて自分がやりとりしました。渋滞損失時間を計算して3Dで可視化すると、タクシィやバスの運転手に生の声を聞きに行くなど、すべて初めてのこと。しかも開通2ヶ月後には記者発表が控えていて、非常にタイトなスケジュール

私の情熱とやりがい

発注者からの感謝の言葉は、コンサルタントとしての大きな喜び。



長尾 一輝（ながお・かずき）

SC事業本部 東北支店  
技術部 技術主査

入社後、東北支店で交通分野を担当。現在は主に交通安全対策や渋滞対策など、交通運用の業務に携わる。大学で交通計画に関する研究に取り組み、平成22年に博士号を取得。

ジュールでした。一般の方々にも分かりやすい資料作りを目指して何度もやり取りし、無事に記者発表を終え、発注者から感謝の言葉をいただいた時はうれしかったですね。この年から、最新の知見を収集するために出身大学の社会人課程に通学。論文を書くなど研究を深め、その後博士号を取得できました。

**渡津** 開発途上国を支援する活動に参加していた親の影響で、小さい頃から開発協力の興味がありません。海外の開発コンサルタントになろうと入社し、8年間は国内事業部で経験を積みました。ACKG 海外研修制度を経て、GC事業本部に異動し、現在は海外事業を担当しています。研修先はタイで、気候変動に関する人材育成支援プロジェクト。約1年間、日本とタイを行き来していました。タイは比較的、環境が整っている国。しかも日本とはちがいが、若手からシニアまで国の中

枢で活躍する女性が多く、とても刺激を受けました。国内外を問わず、関わったどの業務にも大変さと楽しさがありました。計画系の仕事では発注者はもちろん、地域住民と直接話す機会も少なくありません。能力不足で悔しい思いをしたこともありますが、1つのプロジェクトが終わるたびに、この仕事に就いて良かったと感じます。

**矢野** 好きな物理を活かせる仕事があったらいいな、大学で土木を学ぶうちに橋梁などインフラの設計に興味を持ち、この業界に進みました。入社1〜2年くらいは上司にダメ出しをされてばかりで、正直やりがいを感じた余裕はゼロ……。ところが、トンネルの設計を担当していた入社3年目に、用地買収に関する法律に関わるような、いわば畑違いの仕事を担当しました。発注者も手探りで、社内にも法律の専門家はいません。文献を調べる、法律に詳しい方を見つけて相談するなど、解決策を提案するために、ひたすら自分で勉強しました。自分は本来、土木の設計を担当する技術者です。しかし発注者に対して最善の提案をするためには、幅広い知識が必要だということを実感しました。この体験で、コンサルタントとしての自主性が芽生えたように思います。現在は設計の知識を深めながら、機械・電気など異なる分野を網羅できるよう、幅広く学んでいるところです。

**住吉** 大学では交通工学を学び、教

私の情熱とやりがい

国の中枢を担う業務は刺激的で、やりがいの源。



渡津 永子（わたつ・えいこ）

GC事業本部  
地球環境部

SC事業本部にて、環境計画立案や環境アセスメントの業務に従事。ACKGの制度を利用してタイで1年間の研修を経てGC事業本部に異動。気候変動や環境に関する業務を担当する。

授の紹介で当社の入社試験を受けました。配属されたのは道路設計で、仕事の関係により中部支店、関東支店、九州支店と異動。落ち着いて仕事ができなかった反面、たくさんの人材育成ができました。業務で関わっている道路の中には、私が入社するずっと前から、10年以上継続するような案件もあります。仕事をやる上で過去の経緯も認識しているため、発注者が知らないことを自分が知っていることも多く、大きな責任

とやりがいを感じます。今後、自分が関わった道路が完成すれば、大きな喜びになると思います。これは、人々の暮らしに貢献できる仕事の醍醐味ですね。

——OCの社風や他社にない魅力とは、いったい何でしょうか。

**水野** 「こうしたい」という社員一人ひとりの意見を尊重してくれる会社だと思っています。若い頃、トンネルの設計に携わっていたのですが、現場と密接に関わっていて、掘削してみないと分からないことも多いのです。そこで当時の上司に現場を体験させてほしいとお願いしたら、いいだろうと。施工監理を経験したことで、詳細設計の能力が向上したと思います。現場で働く施工会社の方や発注者とも仲良くなり、トンネルの施工が完了した時、みなさんに胴上げをしてもらったのは感激しました。

**森** 前職は、OCよりもずっと規模の小さな会社の技術職。世の中が



模



**矢野 修平** (やの・しゅうへい)  
SC事業本部 関西支店  
技術一部 技師  
入社後、関西支店でトンネル設計や点検業務を担当する。土木設計以外の機械設備や電気設備の設計に幅広く携わり、発注者のニーズに合った事業を推進している。

私の情熱とやりがい

業務を通して、自己成長できる  
コンサルタントは、すばらしい職業。

どう変わろうが、ひたすら橋梁の設計が使命という会社だったので、時代の変化に対して不安を感じていました。OCの頻繁な経営施策の実践は、私は素晴らしいことだと思えます。変化をキャッチして会社の方針を変えるのは、大変なエネルギーが必要。それができるのは他社にない強みだと思います。

**長谷川** 私も転職組で、前職ではゼネコンにいました。建設会社は会社の看板、つまりネームバリューで仕事をやる傾向があります。現在OCの海外部門で業務支援を行う部署にいます。海外のコンサルは特に、個人の力量や実績で評価されます。そのためか、OCは個人の成長を大切に思う会社という印象があります。会社として一流の仕事をするには、社員一人ひとりの成長が不可欠。社員が仕事で満足感を得やすいのは、魅力のひとつではないでしょうか。



**長谷川 靖典** (はせがわ・やすのり)  
GC事業本部  
業務管理部 課長  
ゼネコンで業務を経験後に入社。海外事業において、コンサルタントをサポートする業務管理部に所属する。業績管理と効率向上を目的に、管理会計を通じた改善に取り組んでいる。

OCの魅力

OCはコンサルタントとして  
一流の仕事をするために、  
個人の成長を大切にしている。

ます。考えて答えを出すプロセスは確かに重要なのですが、チームで、そして会社で課題をシェアしていかないと、今後の厳しい競争には勝てないと思いますね。

**長尾** 私のいる部署では週1回ミーティングを実施しています。これまででは会議での決定事項の伝達や幹部からの報告に留まっていたのですが、社員一人ひとりの課題や悩みまで話し合う場にしてしまおうと。私自身も入社当時は、気軽に質問や相談できなかったのです。

**渡津** 私は逆に自分から積極的に質問する方でしたから、その気持ちはずっと分かっていませんでした。恐らく平成生まれの若手社員と、バブル期を経験したシニア層では、コミュニケーションの前提が大きく異なります。上下の世代が断絶しないよう、自分たちの世代が彼らをつなぐ役にならなければ、と思います。

**矢野** 入社した頃は、よく仕事の後

**水野** 社員の意識調査をすると、長時間就業が慢性化していて、それが離職につながっている。あるいはチームなのに、社員が孤立している。まずは今いる社員のモチベーションを高め、一人でも仲間の離職を減らそうというのが目的です。「情熱とやりがい」という照れくさい言葉なのですが、率直に会社を元気にしたいという思いを込めました。

**森** OCには、青年チャレンジ、プレッボード(PB)という次期リーダーとしての修業の場がある。このプロジェクトは野崎社長をはじめ、経営層と我々が中心になって、8つの施策をつくり、推進しています。

**住吉** 若手社員のモチベーションを高め、しかも早期に戦力化させる。非常に難しい課題ですが、やり遂げなければなりません。

**水野** コンサル業界だけに限りませんが、業務の守備範囲が広がり、し

私の情熱とやりがい

世の中のために貢献できることは、  
コンサルタントという職業の醍醐味。



**住吉 祐志** (すみよし・ゆうし)  
SC事業本部 九州支店  
技術部 技術主査  
大学で交通工学を学んだ後、OCに入社。中部支店、関東支店で在籍を経て、2年目に九州支店に配属される。現在は道路設計に関する業務に従事している。

いことは当社の弱点だと思います。

**渡津** よく考えれば長時間就業の課題って、10年越しの話ですよ。なかなか解決するのが難しい課題です。

**森** 自分の課題としては気づいていても、視点を変えて新人社員や若手の立場になれば、してあげられることは結構あると思うんです。8つの施策はすべて正論ですが、全部でさなくても構わない。1つでも2つでもやり続けることが肝心。

**長谷川** 8つの施策は考え方を明文化したものです。楽しくやれるかどうかは大事です。飲み会でも声かけでもいいのですが、上司が周りや部下を巻き込んでいけるにかかっています。

**長尾** 考え過ぎて何をすればいいかわからない社員も多いと思います。そうではなく気軽に「こんなことがしたい」「あんなことができそう」と

OCの魅力

OCにはやりたいことに挑戦できる  
自由闊達な社風が根付いている。



**水野 耕治** (みずの・こうじ)  
SC事業本部 中部支店  
技術部 次長  
入社後に中部支店に配属され、主に道路分野を担当する。舗装・トンネル・土木工事など、施工監理業務に約4年間従事。現在は道路全般における防災業務など、幅広く活動している。



**森 隆信** (もり・たかのぶ)  
SC事業本部 関東支店 震災復興推進室 次長 兼  
プロジェクト開発部 次長  
橋梁設計の経験を積んだ後、2007年に入社。構造グループのリーダーとして九州支店に配属される。経営戦略室、総合マネジメント事業部を経て、現在は震災復興の業務を担当。

OCの魅力

スケールの大きな構造物ができ、  
長く地域に愛される瞬間は、  
OCの社員として最高の魅力。

かもIT化で要求されるスピードも昔と比べて格段に早くなっています。これも負担の増加につながっています。

——他部署との連携、上司や部下など社員同士の交流はいかがですか。

**渡津** 私たちの仕事は地域の課題を考えて解決策を導く仕事。にもかかわらず、作業に追われてなかなか考える時間がない…。しかも技術系の

会社特有の「自分で見て覚えなさい」という空気があるって、特に若手社員にとって上司に軽々しく質問しにくい環境なのかも知れません。でも、若手社員が20〜30分考えて答えが出せなければ、早く周りの誰かに質問して欲しいですね。パソコン相手に1人で考えごまさないで。

**森** 社内を見渡していると、もともと隣同士、隣の部署同士で会話すればいいのに、と思うことがあります。OCにはいろんな技術に精通した多くの社員がいるんだから。上司に質問する場合、本人に限定しなくても構わないと思うんです。その人の周辺には質問の答えを知る人脈が必ずあるはずなので、それを活用するくらいの気持ちで話してほしい。逆に上司からも「どうしたの?」「その分野の専門を知る社員を探してみよう」とか、フランクに声をかけるくらいの方が…。つまり、社内リソースを上手く活用できていないと思

いう前向きな意見を交換したい。チーム内で、あるいは全社横断的なコミュニケーションを増やし、活き活きとした組織にしたいと思っています。

**渡津** 上司が部下に「やれ」ではなく、全員で「やろうよ」だと思ってくんです。私が入社当時、カッコいいなと思った先輩は30代前後の方々でした。30代の社員に魅力があれば、若い社員は、必ずついてくると思っています。だからこそ、このプロジェクトをきっかけにして、自分たちがこれまで実感してきたコンサルタントとしてのやりがいや、OCならではの魅力を周囲に伝え続けていきたいですね。

**矢野** 若手を甘えさせるだけでは、組織が弱体化してしまいます。優秀な人材が長く活躍できるように、今よりさらに魅力ある会社になりたいと思います。

**住吉** 飲みに行くにしてもストレス発散ではなく、会社の将来や、コン



**長谷川 靖典** (はせがわ・やすのり)  
GC事業本部  
業務管理部 課長  
ゼネコンで業務を経験後に入社。海外事業において、コンサルタントをサポートする業務管理部に所属する。業績管理と効率向上を目的に、管理会計を通じた改善に取り組んでいる。

サルタントとしての成長など、ポジティブな話があった。このプロジェクトをきっかけに社員同士がもっと話せる機会を増やしたいです。

**長谷川** プロですからお金を稼ぐ責任があります。これが基本ですが、仕事を楽しめるかどうか重要です。外部の方から「笑顔のあるいい会社だね」と評価されるような組織を目指したい。

**森** 我々世代もそれなりのポジションになり、責任ある役割を担っているということを意識しなければなりません。いい意味で謙虚になり過ぎず、PBメンバーとして積極的に自分の考えやビジョンをぶつけていこうと思います。

**水野** 8つの施策は、みんな議論して決めたこと。机上の空論で終わらせず、自分たちが主役になって全社員で継続的に行動し続けていきましょう！

——本日はありがとうございました。

国内・海外で活躍するコンサルタントには、それぞれ業務を通じて達成感を感じた瞬間があります。10のプロジェクト・ストーリーを紹介し、社員の「情熱」と仕事の「やりがい」に迫ります。

復興  
三陸沿岸道路設計

震災復興という土木技術者としての重要な使命を受け、その中核となる三陸沿岸道路の設計を全力で推進。

短期間での道路完成を目指すため、「事業促進PPP」という新たな手法にチャレンジ。

数多くの犠牲者と甚大な被害をもたらした東日本大震災で、「命の道」として機能を果たした三陸沿岸道路。災害時の避難や復旧活動を行うため、早期に強靱な道路の完成が求められています。そこで初めて国交省が採用したのが「事業促進PPP」という手法。短期間で調査設計・施工を完了するために、民間企業が発注者の立場で事業を遂行します。道路の新規事業区間22.4kmを10区間に分け、そのうち2.5kmの普及久慈工区を5社JVで受注。事業管理・調査設計・用地・施工という4つの役割のうち、調査設計を担当しています。



入する前の土地の調査や測量を行うため、住民への説明会を根気よく実施するなど苦勞もありました。通常1年間ほどかかるのを3カ月間でまとめるようなスケジュール。また、スタート直後は設計業務がどつと出て、そのあまりの量に驚きました。例えば橋梁や道路の場合、予備設計が完全に固まった後、詳細設計に移るのが通常のステップ。しかし短期間で完成させるため、予備設計後すぐに詳細設計が始まるとか。やっと設計が決まっ

たに用地の問題で手直しするなど、調整が難航することも。しかし、短期間で大きな道路事業に携われたのは、貴重な経験となりました。

他支店や協力会社の幅広いサポートを得て、力を合わせるこの重要性を実感。

復興のシンボルと言われる三陸沿岸道路。その完成に向け、橋梁・道路・トンネル・環境など、東北以外の支店の協力を得て、さまざまな分野の技術で臨んでいます。また、JV間の打合せでは同じ土木業界でありながら、違いを感じる瞬間もあり、幅広い知識を吸収できる機会となりました。このプロジェクトを経験する中で、他分野との協力が重要であることを改めて認識しました。津波の影響で、将来の用途が立たない住民も数多く存在します。コンサルタントの使命を持って一刻も早い復興に向け、チームが一丸となって業務に邁進したいと思っています。



左から) 木村 将之、葭葉 信一、梨井 孝宏、柳澤 信也、嶋山 史高、三谷 祐一郎、秋山 修平、和田 廣人



橋梁・道路分野は主に東北支店、トンネル・環境分野は関東支店からの支援で業務を推進。多岐にわたる技術が必要で、しかも短期間で仕上げていくためチームワークが欠かせない。

鉄道  
マニラLRT 1号線拡張整備プロジェクト「フィリピン」

利用者の喜びは、鉄道計画に携わる技術者の喜び。幅広い知見を得て、全体を統括できるPMを目指す。

技術者として参画し、プロジェクトマネージャーに抜擢。LRTの輸送力増強のため、あらゆる角度から検討。

LRT (Light Rail Transit) とは、輸送力が中量な都市鉄道システムのことです。



写真中央が本人。

ももとはベルギーの援助で整備したLRTの、輸送力増強を目的としたプロジェクト。2002年から2011年にかけて実施しました。

パッケージAでは2004年にオペレーション&メンテナンス、つまり運営・維持管理の担当として参画しました。ここでは付加的な

業務として、駅舎の屋根や壁など、建物や施設の状態を確認するため健全度調査を実施。ベルギー企業が設計した構造物が老朽化していたため、耐久性などをチェックしました。

パッケージBでは前任者に代

わり、2008年よりPMに選抜。ここでは運転計画、土木設計、電力供給などの検討や整備、工事のための入札管理や施工管理など幅広い業務を担当しました。輸送力増強のため車両を増やす場合、新たな車両を導入するケースと、古い車両を改良するケースがあります。後者の場合、空調機を設置すると車両がその重量に耐えられないため、車体の強度を上げる必要があります。また、新たな電力が必要となり、電力供給システムをパワーアップさせなければなりません。フィリピンの鉄道は軌道の状態が悪く、サスペンションシステムがすぐに壊れます。全車両のシステムを交換するなど、一連の計画を策定しました。

利用者の笑顔が最大の喜び。政府要人と同席できた経験は、技術者の誇りに。

新しい車両が入り輸送力が増強されたため、LRTの利用客が増えたことは



約1,200万人の人口を擁するマニラには3路線約50kmのLRTシステムが毎日約120万人の乗客を運んでいる。安全で信頼性の高い鉄道システムの拡張は市民の願いだ。

PMとして大きな喜びです。また当時、日本の総理大臣だった安倍首相とフィリピンのグロリア・アロヨ大統領が一緒に、LRT開通のオープニングセレモニーに出席されました。国のトップ2人を間近に見られる場所に同席することができ、感無量でした。この経験は、技術者として誇りに思います。

今後はもっと大きなプロジェクトのPMになるのが夢。そのためには構造という自分の専門分野だけでなく、他の分野を知る必要があります。土木はもちろん、信号、通信、車両自動改札、など最新の知見を学び、全体をまとめられるPMになりたいです。

Jorge Müller (ホルヘ・ミュラー)  
GC事業本部  
軌道交通技術部 次長

チリ大学を卒業後、公共事業に携わる。文部科学省の奨学金を得て、東京工業大学で修士・博士号を取得。1999年よりコンサルタントとして従事し、モンゴル、スリランカ、フィリピンなどの事業に携わる。

**事業経営**  
群馬県立敷島公園の指定管理事業

## コンサルタントから経営者へ。 事業経営という新たな領域に挑戦。

**OC初となる  
異業種JVでの指定管理事業。  
公園を核とした地域活性化を推進。**

OCが代表を務める4社JVが指定管理者として選定。指定管理期間は、3年間、指定管理料は全体約6億円の規模になります。水泳場をスポーツ会社が担当し、陸上競技場、野球場等の芝・植栽管理を造園会社が担当。OCは、公園全体のマネジメントをはじめ自主事業である地域活性化に取り組み、様々な取組みを展開しています。

例えば、プロ野球の巨人戦の開催時には、約2万人以上の来園があり、プロ仕様のピッチに仕上げるため、さらには当日のトラブルに対処するため、様々な事前準備をしました。また、子供たちの夢を乗せる気球の係留などの非日常の経験の場づくり。準備は大変ですが、子供たちの「笑顔」や「ありがとうの声」がやっつよかったという気にしてくれます。

そして、地域活性化の取組みとして、

スペイン一部リーグのプロチームを招聘し、プロのコーチによるサッカーキャンプを石巻市、仙台市を含め国内3地区で開催。また、地産地消をテーマに、周辺の商店と農業生産者を結び地域産野菜の販売をしました。また、敷島ポータルサイト（商標登録）を開設し、周辺の商店と連携して即時性のある情報配信とクーポンを活用した成功報酬型事業として「SHIKIPO しきぽっ・ローカルネットワーク」の構築・推進しています。

**投資をして利益をあげるのが事業経営。経営者として意識が変わり、成長を実感。**

コンサルタントというより、公園という一つの企業を運営するようなもの。事業経営は、収入が支出（投資）を超えた時に利益となる。このため、先に収入が確定していないことから収益リスクがあることが大きな違い。



また、異業種JVであることから、共通言語の違いと世代間ギャップが課題です。20代のスポーツ会社の従業員から60代の造園会社の従業員までメンバーはさまざま。このため、目標のベクトルを合わせるため、実務者レベルでの週一回の週会議をはじめ、業務改善を目的として業務改善委員会を毎月開催するなど現場レベルの課題を共有しています。また、

四半期ごとに各社代表から構成される監理委員会で収益状況などを管理及び課題の共有をしています。自分の役割だけをこなせばいいのではなく一人何役かをこなして労働生産性を上げ、また、新たな利益を生む付加価値の高い仕事ができるよう従業員のマインドを変えることが今の目標です。

そして、今後の展開を想定して前橋市にオリエンタル群馬を設立し、代表を任せられました。異業種の社長や行政トップと話す機会も増え、大変刺激になり勉強になります。経験も浅く課題も多いですが、自分が会社を背負う覚悟で、今後の成長につなげていきたいです。

**中笠 智親**  
(なかのともちか)  
SC事業本部  
総合マネジメント事業部 担当次長 兼  
株式会社オリエンタル群馬  
代表取締役社長

入社後、環境・景観分野の仕事に従事。四国支店を経てACKGでは総務・企画を経験。同時にまちづくり大学院卒業。震災復興業務に関わった後に包括管理事業、現在、地域活性化を題材として事業経営に携わる。

## 赤と青のカラー舗装で、ドライバーを安全に誘導。 国内トップレベルの技術を持つ 会社の一員という誇りを持って業務を推進。

**交通**  
ジャンクション  
大橋JCT交通安全対策

**日本初の特種構造を持つ  
大橋JCTにおいて、  
OC保有の交通技術を駆使して、  
利用者のストレス増大のリスクを軽減。**

大橋JCTは、2周のループ形状に加えてらせん構造。連続的に同じ風景が長く続くため、ドライバーが行き先や現在地を認知しにくいというリスクがありました。そしてどのように案内誘導すれば利用者が迷わず、しかもストレスなく目的地にたどり着けるかが課題でした。発注者もその課題を認識しているものの、具体的に何が問題で、どのように解決すればいいのかが分からない状態。そこで走行支援のための検討業務を実施することになりました。

いろんな立場の方を説得するため、交通分野や人間工学の専門家や研究者に声をかけ、意見を共有する体制を構築。当初から漠然と「色で誘導することになる

のだろうな」とは考えていて、色で案内誘導している全国の事例を収集するほか、

有識者の意見を反映しながら、事例やアイデアを元に一次案を作成。DS（ドライビングシミュレーター）というバーチャル空間で被験者が運転できる環境を作り、走行実験を行いました。さらに、まだ工事中だったためシートを並べて色付けして現場実験。ループは楕円なのでカーブが緩い所ときつい所があります。ゼブラ模様やパターンに変化をつけるなど、ドライバーの負担を軽減する工夫を凝らしました。

**発注者からの信頼が厚く、  
期待も大きい交通分野。  
さらにレベルの高い仕事に  
挑戦したい。**

安全に関わるため、現場実験には警察の方にも参加いただきました。発注者、行政、警察、有識者など関係者の合意形

成が大切です。大橋JCTは日本初の構造で前例がなく、ゼロから方法を組み立てる初期段階で苦労しました。工事が進行中なので、施工現場を見ながら現場実験を調整。工程管理にも注意する必要があります。安全対策や渋滞対策の検討は、すべて当社が請け負っており、提案に関して高い評価をいただいています。OCは交通分野において国内トップレベルの技術を持つ会社。難易度の高い仕事に取り組むことができるのはコンサルタントとして大きな喜びですね。

成が大切です。大橋JCTは日本初の構造で前例がなく、ゼロから方法を組み立てる初期段階で苦労しました。工事が進行中なので、施工現場を見ながら現場実験を調整。工程管理にも注意する必要があります。安全対策や渋滞対策の検討は、すべて当社が請け負っており、提案に関して高い評価をいただいています。OCは交通分野において国内トップレベルの技術を持つ会社。難易度の高い仕事に取り組むことができるのはコンサルタントとして大きな喜びですね。

**後藤 秀典**  
(ごとう・ひでのり)  
SC事業本部 関東支店  
都市地域創生事業部門  
交通技術部 副主幹

入社後から関東支店で、主に交通分野を担当。これまで交通安全対策、渋滞対策、スマートインターチェンジの整備、トンネル防災など幅広い業務に従事している。



左から) 梅田 祥吾、後藤 秀典



大橋JCTは、最大約70mの地下トンネルと高架を接続する。ドライバーを安全に誘導するため、カーブの形状に応じた赤・青のカラー舗装をはじめ、看板や安全施設などをトータルにデザインした。



敷島公園は陸上競技場、野球場、サッカー・ラグビー場、プールなどスポーツ競技場を備えた群馬県唯一の施設です。年度ごとの外部評価において、平成24年度には県立公園で最高位のA評価を獲得しました。

## 道路

ハノイ市環状3号線道路施工監理業務「ベトナム」

# 交通の円滑な動線の「要」となる、重要な環状道路。地域の経済成長や人々の生活向上に貢献したい。

多くの国道につながる

交通量の多い環状線。

3つのパッケージで

合計9kmの施工監理を実施。

ハノイ市環状3号線は、市街中心地より放射状に延びている各国道の集散機能を備えた環状道路。整備の重要性が認識されていた。私が担当したのは、環状線の南側区間約9kmの高架橋の施工監理業務で最も交通量の多い区間のひとつ。詳細設計に基づき施工会社を入札で選定し、図面の品質と並び、工期に遅れることなく施工会社を監理する仕事です。

担当区間は3つのパッケージに分かれており、パッケージ1・3はベトナム、パッケージ2は日本の建設会社が工事を行いました。パッケージの上位には、全体を統括するコアチームがあり、私を含め橋梁エンジニアやPMが所属するJVで構成。ローカルのコンサル会社からも数名参加しています。コアチームの役目

は、3区間の品質や工程の監理。問題が起らないようチェックします。各パッケージの責任者は日本人で、その下にローカルの技術者が30名くらいいて、材料や寸法など現場のチェック機能を果たしています。

当たり前のことを

当たり前にやった結果として、

ベトナムの建設大臣から表彰を授与。

各パッケージは30ヶ月間の工期を計画していたのですが、すべて工期内に終了。特にパッケージ2では半分の工期で完成しました。このため、ベトナムの建設大臣から表彰を授与されました。正直驚きましたが、工期を短縮できた理由は事前で起こりうる問題を想定し、共有できたことでしょうか。コンサルと建設会社、そしてローカルの作業員などいろいろなメンバーがいる中、情報共有を心がけてきました。一緒に食事したり、会話を増やしたり…。ぎすぎすした雰囲気だと、特

に海外では仕事が上手く回りません。特別なことをしたわけではなく「当たり前のことを当たり前にやる」ことが結果につながったのだと思います。大臣からの表彰は今後の評価に影響すると思いますので、継続受注につなげたいです。

私自身はこれまで、フィリピン、ウガンダ、タンザニアなどの案件に関わってきました。海外事業の魅力はコンサル個人の能力が評価されること。大臣の前でプレゼンテーションするなど、自分を高める機会も多く、満足感がありますね。

### 小西 知行

(こにしともゆき)

GC事業本部  
道路計画部 課長

コンサルタント会社に入社後、構造部に所属し国内で多数の橋梁案件に携わる。その後OCでは、海外事業において、大型道路・橋梁などの計画・設計・施工監理を経験する。



経済の発展や人口の増加に伴い、道路整備の重要性が指摘されてきたハノイ。引き続き、さまざまな業務において、プロポーザルでの受注を目指している。



## 橋梁

徳山ダム橋梁 予備設計・詳細設計

# 設計者として、大きく成長するきっかけとなった子供に自慢できる日本一のエクストラードードPC橋。

設計・施工など構造だけでなくデザインにも配慮し、幅広い視野で景観とコストの2つの課題を解決。

周辺地域の水源として、新たに徳山ダムの建設が決定。しかし、元の国道が水没するため、ダムの水面上に国道を付け替える必要がありました。このための橋梁が徳山6号橋です。この事業は中部支店が初めてコンベ（現在のプロポーザル方式）で受注。平成7年から始まり、平成9年から私が管理技術者として基本設計と詳細設計を担当しました。

課題は景観とコスト。中央径間長220m、橋脚 高100m、橋長503mの大きな橋を造るためどのような方式が最適か、じっくりと検討を重ねました。景観面では、橋の向こう側の景色が透けて見えるよう、できるだけ橋桁を薄くする。コスト面では当初、鉄が有力視されていましたが、橋脚高が

100mもあるため、鉄だと架設に多大なコストがかかります。軽量の鉄が良いのではと進められていましたが、我々はトータルコストの安いコンクリート提案しました。湖畔景観との調和を図るため、強度を意識しながらも桁の高さを調整しました。プロジェクトが始まった平成7年は、阪神・淡路大震災が起きた年。耐震強度について照査の精度を高めるため、通常は行わない幾何学的非線形を考慮した耐震安全性の確認も行いました。

発注者との信頼関係は、

一つひとつの仕事の積み重ね。

責任者としてのOCの技術力とブランドを再認識。

発注者はダムの専門家であったため、徳山6号橋についてはOCが行政や大学との委員会を通じて何度も説明を行いました。その中で発注者からの信頼を得られたと思います。また、このプロジェクトは私が30代の後半に、責任者として携わった初めての仕事。大きな案件で構



徳山ダムの両岸をつなぐ徳山6号橋。コンクリートだけのエクストラードード橋では日本一の規模を誇る。規模の割に橋桁が薄く、地域の景観を損なわない配慮がなされている。

造が困難だったため、他支店の先輩方から多くの支援や助言をいただき、改めてOCの技術力やブランドに気がきました。親しくさせてもらった担当者との別場所でも偶然お会いした時、「徳山ダムを象徴する素晴らしい橋ができました。長屋さんには大変お世話になりました」とお言葉をいただいた時は、苦労が多かっただけにうれしかったですね。

徳山6号橋はエクストラードード橋では日本一の規模、世界でもトップクラスの橋梁だと思います。徳山ダムのポスターや広告には必ず紹介される橋。自分の子供にも自慢できる橋の設計に携われたことは一生の思い出です。

### 長屋 定政

(ながやさだまさ)

SC事業本部 中部支店  
副支店長 兼 事業企画部長

昭和63年から16年間中部支店に所属し、橋梁や地下構造物の計画・設計に従事。その後、本社、関西支店、中国支店を経て中部支店へ。現在は主に新規事業や顧客開拓を担当する。



左から) 林 克弘、長屋 定政、中根 恒夫、増田 貴充

## 防災

テヘラン地震災害軽減プロジェクト「イラン」

# 災害をなくすのは無理だが、ゼロに近づけることは可能。 日本の防災技術で、世界の安全に貢献したい。

地震の多いイランの首都テヘランで  
災害の軽減に向け、  
14年間続くプロジェクト。

1999年に受注した当時は、地震防災に関する初めての大きな案件でした。当初の事業から発展しながら継続し、現

在では4つ目の事業。入社2年目から現在の副総括になるまでの約14年間、ライフワークとして自身の成長にもつながっています。

最初の事業では、テヘランの地震被害想定を実施。地盤の状況、住宅、学校や病院など建物、ライフラインの情報を取

集しなければならぬのですが、何しろデータがありません。役所や関係機関を回る、粗い地形図を元にデータを作るなど対応に追われました。地震の規模を設定して統計的に数値化して被害を想定しました。2つ目はマスタートープランの策

定です。ソフト・ハードの両面から何百という施策をリストアップし、その中から12の優先施策を提言しました。3つ目は12の施策から、(1)緊急対応体制の構築(2)地震被害早期推計システムの構築(3)避難計画という3つを選定。私は避難計画の担当として、避難ガイドラインや避難マップを作成し、住民に配布して避難訓練を実施しました。現在は4つ目の事業として、12の計画からさらに2つをピックアップして取り組んでいるところ。

**計画だけに終わらせず  
実行に移せた喜びと、  
政府要人と接するなど  
ダイナミズムを実感。**

計画だけで終わることなく、現地の方々が防災知識を得ようと行動に移してくれたことで、目に見えた成果が出てきています。もちろん、円滑に事業が進んだわけではありません。カウンターパートの

保身のために、関係機関の前で罵られたこともありましたが、しかし政府関係者から働きぶりを評価されたからこそ、長く継続しているのだと思います。海外では政府の高官に会う機会も多く、当時お会いしたテヘラン市長はその後、大統領となり非常に驚きました。要人と対等に話すことができるなど、ダイナミズムを感じます。

2015年3月には世界防災会議が仙台市で開催されることが決まり、東日本大震災以降も、世界では日本の防災分野での支援が注目されています。人命に関わる事業なので責任は重大ですが、向上心を持って取り組んでいきたいですね。

**高橋 亮司**  
(たかはし りょうし)  
GC事業本部  
都市地域開発部  
防災・観光開発グループ長

入社以来、防災関連の事業に一貫して従事。地震防災分野の知見は幅広く、法制度、組織強化、防災計画、コミュニティ防災などに携わる。現在は総合防災プロジェクトを中心に活動中。

## 防災

九州北部豪雨災害対応

# 3ヶ月という短期間で実現できた河川の改良復旧計画。 豪雨災害で経験した技術の連携とチームワーク。

未曾有の豪雨災害で求められた緊急対応。  
他支店・グループ会社の協力で、  
復旧計画を推進。

全国的にも注目を集めた豪雨災害。私たちは福岡県と大分県の県境を流れる隈上川の災害復旧事業を担当しました。もともと九州は台風の経路に当たると、風水害の多いエリアです。しかし今回はかつて経験したことのない大雨で、死者を出したほか、住宅損壊、土砂災害、浸水など甚大な被害をもたらしました。災害の規模が桁外れで、河川のみならず道

路や橋梁も被災したため、発注者である県の担当窓口が異なるなど、調整が難航しました。

災害直後は1分1秒を争うため、緊急対応が求められます。すぐに現場へ向かい、被害状況を調査。被害の場所を特定し、規模を把握します。人員が足りず、他の支店へも応援を要請。測量や調査ではグループ会社のエテックにも協力をいただきました。その後、河川の復旧計画を進めるため、役所の担当者とも何度も協議を重ね、復旧方法を検討していきまし

た。通常の工程では1年以上かかるのを、約3ヶ月で計画・設計を完了し災害査定を受け、国庫補助金を申請できました。

**河川だけでなく橋梁や道路など  
他部門と連携し、  
今後の被害を軽減できるよう  
改良復旧を提案。**

通常の災害復旧では、これまでと同じ形状に戻るのが一般的です。しかしこの



左から) 宮原 啓匡、西 大輔、土谷 安司、佐藤 睦美、柴田 芳信、青龍 靖則

プロジェクトでは、単なる復旧に留まらず、次の災害に備えた改良復旧に取り組みました。水を流れやすくするため川幅を広げる。水流の影響を強く受けていた箇所を湾曲カーブをゆるくし、道路が通過する川岸への負担を減らす。そのため橋の架け替えや道路の設計など、通常の



平成24年7月、梅雨前線の活動が活発化し、熊本県阿蘇付近を中心に福岡県から大分県の広範囲で降った豪雨。死者を含む甚大な被害をもたらした。九州支店では災害復旧事業の全工程に携わった。

復旧工事と比べ大がかりで業務が幅広いことも特徴でした。私が担当した河川の設計では、現地の調査からスタートし、測量結果をもとに設計した図面が現場と合っているかを確認。合っていない場合は戻って図面を修正するという作業を何度もくり返しました。災害直後から調査、測量、計画、設計という一連の流れを経験できたこと。河川・橋梁・道路など他分野が連携し、たった3ヶ月間で大きなプロジェクトを成功に導くことができたことは、大きな自信になりました。また、他の支店やグループ会社とジョイントして対応できるという、OCの強みを改めて認識できました。

**佐藤 睦美**  
(さとう むつみ)  
SC事業本部 九州支店  
技術部 技師

入社後、九州支店に配属され、主に河川構造物の設計を担当。担当部署では河川・港湾に関する計画策定や構造物の設計など、幅広く対応している。



カウンターパートや政府関係者など定期的に日本の防災体制を例にしながら先方政府での実施方法について協議し、段階的にプロジェクトを進めて行く。先方政府を尊重し、同じ目線で信頼関係を構築することが国際協力の基本理念と考え常に心がけている。



## 建築

キンシャ保健人材センターおよび国立職業訓練校整備計画「三三三」

# 2件同時に進めた人材育成施設の整備プロジェクト。 アフリカの国に、日本の技術で存在感をアピール。

内戦からの復興支援を目的に、  
国立職業訓練校と  
保健人材センターを整備。

コンゴ民主共和国は10年におよぶ内戦からの復興に取り組み、OCでは最初に復興計画に携わりました。その後保健人材センターと国立職業訓練校を立て続けにプロポーザルで受注。2件とも私がPMとして調査、計画、設計、模型作りからパース作成まで幅広く統括しました。保健人材センターでは看護・助産・薬学など5コースの実習室、教室、図書室などの学校施設や学生宿舎などの整備を実施。国立職業訓練校では、電気・機械・自動車整備・建築などを学ぶ施設の建設や機材整備を行いました。

## 多分野

設計便覧改訂資料作成「共通道路・河川・機械・電気通信」

土木構造物や付属施設に関わる設計基準は有識者による委員会によりその方向性が定められるものの、雪の多い東北や台風が多い四国など、地域性までは加味されていません。そこで地方ごとに地域の特徴をふまえた設計基準が作成されます。

平成8年から過去4回の改定すべてに関わってきましたが、共通道路・河川・機械・電気通信の5編一式というところが、これまでどの大きなながいでした。私自身も過去4回を経て、担当→主担当→個別分野管理→統括管理と責任が重くなってきたわけです。業務量が多く守備範囲も広いため、関西支店だけの対応は困難でした。河川に強い九州支店、機械系技術者のいる関東支店などに支援を求めました。5編それぞれに管理技術者

支援をすべきだという意見が多く、存在感を示す必要があったからです。そこで現地調査中、一晩で完成予想図（パース）を作り上げ大きい看板にして敷地に設置。努力の結果、用地を確保できたという経緯があります。

国の基礎となる人材育成に  
貢献するため、  
現地の方が切望する施設を  
作り上げる喜びを実感。

コンゴ民では内戦から復興するため、国づくりの基礎となる人材育成が急務です。そんな中、人の命に関わる保健人材の育成、そして産業の担い手となる職業人材の育成に寄与できることに、大きなやりがいを感じます。海外事業は国際貢献に関わることができ、現地の利用者が切望している施設を自分たちの手で作り上げるといふ魅力があります。その一方ODAの仕事ばかりしていると新しい技術から疎遠になる面も。海外では、日

本のように建築の最新技術がフルに使えるわけではありません。利用できる建築資材も限られていて、作業員の技術レベルが低いため工法にも制限があるからです。海外事業に携わるからこそ、常に新たな技術をキャッチアップする必要があります。

開発途上国では慣習や文化、言語など課題は尽きません。かつて上司から教わった4A「あせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず」を意識し、どのような場面に遭遇しても、落ち着いて対応できるコンサルタントであり続けたいと思います。

# 5編すべての改訂資料作成をプロポーザルで選定。 高度経済成長期を支えた、熟練技術者の技術継承にも貢献。

を置き、私は統括管理として全体構成や作成工程の立案、各編の整合性がとれているか、表現やトーンが揃っているかなどをチェックする立場。管理技術者の下にも多くの技術者がおり、合計50人以上が携わりました。

改定結果だけでなく、  
その根拠や理由を解説。若手技術者の  
育成を見据えた資料を提案。

入社して20年余、少々マンネリ化していましたが、この業務を通じて「個人の限界と組織で仕事をするこの楽しさ」「支えられるありがたさ」「技術伝承したい熟練技術者の思い」「伸びるきっかけを掴んだ若手技術者の力」「発注者と共に仕事をすることの楽しさ」をあらためて感じ、仕切り直してがんばろうという気になりました。例えば、今回の改訂で最大のポイントのは、新旧の改訂結果だけではなく、そこに至る理由や経緯に言及したこと。左ページに旧版、右ページに改訂版と比

較対照できるので、改訂の意味や根拠をページの端に詳しく掲載しました。当初この提案には多大な労力を要することから反対もありましたが、発注者からの問合せに対応している若手・中堅技術者から、再度学ぶことで理解が深まり、自信をもって仕事に取り組みようになったと聞いたときはうれしかったですね。また、発注者に対し、事業パートナーとしての信頼構築も深まりました。

私自身は今後、異分野の専門家を取り組む複合的なプロジェクトに関わっていききたい。若手にはマニュアルに頼らず、その意味や背景を知る技術者を目指してほしいです。

## 高根 努

(たかね つとむ)  
SC事業本部 関西支店  
技術一部 担当次長

入社後、主に山岳トンネル工法で施工されたトンネル設計を担当。現在は、道路や橋梁・河川トンネルなどの土木構造物や付属施設（機械設備・電気通信施設など）の総合監理業務に活躍の場を広げるとともに、防災関連業務に携わる。



奥（左から）黒木 正信、蔵下 一幸、木村 和夫、中山 宏、西浦 清貴、内田 晶夫、隆山 路生  
手前（左から）志村 猛志、高根 努、西垣 昌俊、中村 美香、多田 貴久



平成8年、12年、16年、23年と過去4回の改定に携わる。今回のプロジェクトでは、5編すべての改定を担当した。インフラだけでなく、機械や電気通信など幅広い分野を網羅している。

## 宮武 一弘

(みやたけかずひろ)  
GC事業本部  
建築開発部 次長

建築設計事務所勤務し、一級建築士の資格を取得。1996年より海外案件の調査、計画、設計、監理などコンサルタント業務に従事する。主に小学校、大学、専門学校など人材育成関連施設を担当。



国立職業訓練校は2014年9月に完成予定、保健人材センターは2013年7月にすでに竣工している。



# 成長のキセキ

自身がコンサルタントとして成長を実感した出来事や、後輩への指導で力を入れていることなど、このコーナーでは、社員の「成長」や「育成」に関するエピソードをご紹介します。

## ① 技術と想いの伝承

「熱い想いを持って、仕事に取り組んでほしい。」

「交通チームでは、地域に根ざした交通事故対策や高速道路の渋滞対策のほか、東北大学との産学連携の取り組みなどにも参画しています。OCでは交通分野の歴史が長く、昔は交通工学が進んでいなかったため、交通現象そのものの解析が仕事になっていました。現在は多くの業務において解析結果に基づき事業を推進していますが、人材育成の面では、我々の世代が学んできた交通現象の基礎を大事にし、しっかりと身につけてから仕事に取り組んでほしいと考えています。技術だけではなく、想いの伝承も行っていきたいですね」(江藤)

「日々の業務をコツコツこなすことは大事ですが、OJT だけだと視野が狭くなる場合もあります。そこで、研究発表会に出席して技術を吸収したり、外部との共同研究を通して人脈を形成したりするなど、業務以外の部分にも目を向けるよう指導しています」(松戸)

「交通チームは支店長を含めて 4 人という少人数なので、普段の仕事と並行して新しいことにチャレンジしていくには努力が必要です。そうした環境の中でも、常に新しいことに目を向けて提案していくようにしています。以前、全国の事例を参考に、東北では今までに無かった新しい交通事故対策を提案したのですが、実際に施工されたものを現場で見た時はうれしかったですね」(長尾)

「まだ入社 1 年目ですが、大学との共同研究(災害発生時のシミュレーション)に参画し、望んでいた震災に関する仕事に興味深く関わらせていただいています。日々やる気を持って取り組むことが、自分の視野を広げることにつながっていると実感しています」(柿元)



SC事業本部 東北支店 技術部  
左から 長尾 一輝(ながおかずき) 江藤 和昭(えとうかずあき) 松戸 努(まつとつとむ) 柿元 祐史(かきもとゆうじ)

## ② 海外研修を通じた成長のきっかけ

海外事業において重要なのは、語学力よりも幅広い技術力。

OSSC 海外研修制度を活用し、平成25年 6 月に約 1 ヶ月間、カンボジアへ研修に行きました。首都プノンペンにはバンコクとホーチミンをつなぐ国道 1 号線が通っているのですが、途中、メコン河で分断される部分だけフェリーによる渡航が避けられません。そこに橋梁を建設し、安全で円滑な道路交通を確保する計画が進められており、研修では橋梁の施工監理業務をサポートしました。

短期間なので、自分が目覚ましく成長したというわけではありません。しかし実際に海外の現場に行き強く感じたのは、語学力以上に、基礎技術を中心とした幅広い知識が必要だということです。自分自身で迅速かつ正確に判断するためにも、やはり技術力を高めていかなければならないと、改めて気付くことができました。基本的に仕事

内容は国内外で大きな違いはないのですが、海外では積極性や実行力が求められます。現地での 1 カ月間は、私にとって貴重な経験になりました。

海外研修のときと同じように、これからもやりたいことがあればチャレンジし、たくさんの方の失敗や苦労をしながらも、そこから多くのことを学んで成長していければと考えています。



中部支店の井嶋さん(左)も松井さんと同じく、海外研修制度経験者の1人。中部支店からは多くのメンバーがこの制度を利用している。

## ③ 海外における品質管理の徹底

直属の部下を、品質管理のプロにしっかりと育てるには忍耐が必要。

インド南部の州都バンガロールにおける地下鉄事業「バンガロールメトロプロジェクト」は総額 600 億円という壮大なプロジェクト。約 4 万人の雇用者で運営されています。私は全工事の品質管理責任者である Chief Quality Engineer を担当し、直属の部下にシニアエンジニアが12名ほど、その配下に100人以上のローカル技術者を抱えています。もちろん部下は全員インド人ですが、その気質として、新しい技術の導入には積極的なのに対して、品質管理や安全管理への意識が貧弱な状況でした。

こうした中で、底上げしていくためには人材育成が重要なテーマとなります。日本では ISO という国際標準規格での品質が徹底されていますが、彼らにとっては初めての経験。まずは直属の部下を品質管理のプロとしてし

かりと育て、その上で配下にも講習や訓練を繰り返して学ばせるよう実践しています。さらに、OC 社内の人材育成に関しても、SC 事業本部の若手エンジニアを研究生として受け入れ、将来的に海外コンサルタントの仲間入りを果たせるよう、海外プロジェクトの面白さとリスクを伝達するようになっています。



地下鉄事業には、開発途上国の人々の憧れと期待が込められている。交通インフラを支えるのは大きなやりがいだ。

阿部さん以外には女性技術者がいないため、ローカルの技術者には「マダム」の愛称で親しまれている。

## ④ 尊敬する先輩から吸収

成長していくために必要なのは、自らが仕事への意欲を示すこと。

入社後 4 年目になりますが、主に JICA における交通調査・分析、需要予測などを担当しています。これまでウクライナやインドネシアのジャカルタ、母国のカンボジアで事業に携わりました。

本社と比べると、海外で活動するチームは決して規模は大きくありません。ベテランから新人までキャリアの異なる社員がともに働いていく中で、自分が成長していくために率先して意欲を示すことを心がけてきました。非常に尊敬できる先輩の近くで働いていたときは、仕事に対してすべての経験や知識をぶつけるという彼の姿勢や、有言実行、の行動力に魅力を感じ、できる限り吸収することを心掛けました。

今後は技術だけでなく、マネジメント能力を高めていきたいと考えています。そのためにも、自分の専門分野の枠を超えて、異なる分野にも積極的に顔を出し、全体の動きを把握できるスキルを身につけるつもりです。そして10年後には PM になり、自分が学んだことを活かして母国の開発を正しい方向に導きたい。そして母国の発展に貢献することが、現在の目標ですね。

### 松井 祐樹

(まついゆうき)  
SC事業本部 中部支店  
技術部 技術主査

入社後3か月間の研修を経て中部支店に配属され、道路設計を中心に担当。その他、道路施工検討業務、交通事故対策、ラウンドアバウトなどの検討業務に従事する。



### 阿部 玲子

(あべれいこ)  
GC事業本部  
軌道交通技術部  
プロジェクト部長

大学院を修了後、大手ゼネコンで海外のインフラ事業に従事する。その後コンサルタント会社に転職。OCではインドのデリーメトロやバンガロールメトロなど、鉄道関連の事業を推進している。



### Kov Monyrath

(コフ・モニラット)  
GC事業本部 交通計画部  
交通計画グループ

母国カンボジアでは、専門学校および大学で計画や構造などを学ぶ。日本の大学で博士課程を取得後、2010年にOC入社。主に海外で、交通調査・分析・需要予測などを担当する。



海外では政府や行政の要人を前にして、プレゼンテーションをすることも。論理的で説得力のある明瞭な説明が求められる。



⑤ 発注者をリードする  
コンサルタントとしての姿勢

過去の事業とは異なる経験で  
技術レベルの向上を実現。

コンサルタントとして成長を感じることになったのは、異常気象時の孤立集落解消を目的としたバイパスの新規事業化業務です。宮崎県南部の海岸沿いにある道路の一部では、以前から雨が170mm以上降ると通行止めになり、いくつかの集落が孤立することがありました。その解消のため、住民からの要望に則り、集落間を結ぶ約6kmのバイパスを事業化するという業務でした。

過去の事業と異なっていたのは、発注者も経験がなく、事業化に結び付けるための明確な方針を持っていないということでした。そんな中、手探り状態で何度も協議・検討を重ねましたが、発注者は多忙で、短時間で説得する必要がありますがありました。そこで、自分のアイデアや要点を1ペーパーで短くまとめたり、簡潔かつ的確に説明したりするなど、さまざまな工夫を心掛けました。その結果、文書作成能力や説得力、現場対応力が向上し、それが技術士の資格取得の一因にもなっています。厳しい状況をクリアしたことが、自分自身の成長につながったのではないかと考えています。



同世代の2人は、お互いに切磋琢磨する良き同僚でありライバルでもある。

左) **緒方 剛**  
(おがたつよし)  
SC事業本部 九州支店  
技術部 副主幹

入社後、中国・関東支店や本社で、主に道路交通計画に関する業務を担当する。

右) **石井 健太郎**  
(いしいけんたろう)  
SC事業本部 九州支店  
技術部 副主幹

入社後は中部・関西・四国の各支店や本社と、全国で道路分野に従事。現在は九州支店で、沖縄エリアを含めた道路整備計画の支援など幅広く担当する。

⑥ 若手の中心となり  
活躍する女性技術者

男女区別なく仕事できる環境に感謝。  
もって女性の力を活用できる組織に。

都市・環境Gは都市Gと環境Gが組織再編で統合。もともと都市Gが担当していた公園管理や都市計画などの業務、環境Gの生活・自然環境の予測評価や環境影響評価などの業務に加え、新エネルギーや原発事故での避難路関係の業務を関東支店とともに対応するなど、幅広くカバーしています。太陽光・小水力発電などを活用した低炭素街づくり、公園の運営管理、観光地における多言語化など外国人受け入れ対策など、まだ社内に見聞の蓄積の少ない業務が多いため、毎年新しいテーマを受け持つたびに社内外の事例を収集するなど勉強の毎日です。

土木やコンサルタント分野は圧倒的に男性が多いのですが、当社はいい意味で、男女の区別なく技術の教育や指導を受けられる会社。特に男性技術者はコミュニケーションや雰囲気づくりが苦手という方も多いので、女性の力をもっと活用してほしいと思います。技術職に就いている女性社員は、結婚や出産をきっかけに退職される方も少なくありません。せっかく技術を身につけ、数年で辞めてしまうのはもった



河川Gの同僚である小川さんと一緒に。男女の区別なく仕事できる環境に満足している。

いない。育児休暇や短時間勤務などの制度がもっと利用しやすくなれば、女性の力を活用できる組織になると思います。

西ノ園 ちえみ  
(にしそのちえみ)  
SC事業本部 関西支店  
技術二部 技師

関西支店において、主に環境に関する業務に従事する。新エネルギー・低炭素街づくり業務、公園運営管理業務など幅広く担当する。



⑦ 基礎技術の重要性

若手社員の実務に対する姿勢に  
変化や改善が生まれることを期待。

現在携わっている主な業務内容は、交通技術に関するプロジェクトの管理、および若年技術者の技術指導や育成です。後者の一環として、平成25年6月から月1回のペースで「OC交通ゼミ」という勉強会を企画、主催しています。私は交通の円滑化、安全対策、管理・運用関連などの業務に35年間従事してきましたが、時代の流れとともに交通分野には社会的な問題、つまり交通渋滞、交通安全、バリアフリー、道路防災など、多種多様な問題や課題が生まれてきました。それらを解決するためには、諸先輩方をはじめとした我々技術者は、試行錯誤しながらも業務を遂行してきました。その際に基礎となるのが交通工学の知識です。

本来は基礎技術があつた上での応用や活用なのですが、今の若手技術者の場合、実務的なことはできても、基礎を知らない人が多いのも事実。OC交通ゼミは、彼らにその重要性を伝え、学んでもらうことを目的としています。これにより業務への理解が深まって論理的思考が身につく、若手社員の実務にも変化や改善が生まれることを期待しています。



勉強会参加メンバーたちと。若手からの信頼は厚い。

辻 光弘  
(つじみつひろ)  
SC事業本部 関東支店  
都市地域創生事業部門  
交通技術部 技師長

1978年に入社後、交通調査や研究業務を担当。途中、交通安全技術移転業務で海外を経験する。その後、関西支店や外部への出向などを経て現在に至る。交通関連の事業に35年間従事。



⑧ 海外事業の営業力強化

常にチャレンジし、自分で道を  
切り開ける人材の育成が目標。

営業部に所属し、JICAや経済産業省からの業務を受注するための提案書作成や契約交渉などを担当しています。通常は受注までが中心ですが、案件によっては海外でのプロジェクトの立ち上げに関わることもあり、それが私自身の成長にもつながってきたと思います。たとえばコートジボワール国大アビジャン圏都市整備計画策定プロジェクトでは海外出張に同行。ここは実質的な首都であり経済の中心地なのですが、急激な人口増加に伴い無秩序な都市となっており、早急な対応が求められていました。道路、橋、鉄道などのインフラ整備を中心に、マスタープランを策定するのが主な業務です。このプロジェクトでは、自分が準備した仕事がつながるが見えるなど、海外に貢献できる喜びを感じることができました。

現在、営業部に配属となった新卒社員の教育に取り組んでいます。自分の経験から言えるのは、成長には機会と期待が大切ということです。期待を込めて、新しいことにどんどんチャレンジしてもらおう。特に海外事業は行動力が欠かせませんので、失敗を怖れず、自分で道を切り開いていける人材を育成できるよう、努力していきます。



北アルプス燕岳(2,763m)にて、未来を見つめる。

鈴木 諭  
(すずきさとし)  
GC事業本部  
営業部

大学を卒業後2年間、青年海外協力隊に所属しマラウイにおいてエイズ関連対策の業務をサポート。OC入社後は海外事業を推進する営業部に所属し、提案書作成や契約交渉業務に従事する。



# チーム力向上委員会

国内外の支店や拠点、そして有志のグループでは、チームワークを高める、あるいは知見の共有のため、さまざまな取り組みを行っています。ここではいくつかの事例をお伝えします。

## 特定地域の文化を知る

### アフリカ研究会

#### 自身の経験を活かし、アフリカでの事業推進に貢献していきたい。

**現** 在、コートジボワールの都市・交通分野のマスタープラン策定プロジェクトに関わっているのですが、アフリカ研究会に所属し見識を深めています。この勉強会は、同地域への理解を深めることを目的とし、10名ほどのメンバーが3ヶ月に1度集まり、アフリカの文化やメンバーが関わった事業の経験などについて話し合うものです。フランス人である父の仕事の関係で私自身もアフリカに住んでいたこと、フランスとアフリカとの関係性が強いことからプレゼンを依頼されたのをきっかけに入会しました。

現在、ODAによる支援は徐々にアジアからアフリカへとシフトし、事業エリアが変化しつつあります。OCではアフリカでのプロジェクトが増えています。現地に拠点がいないため、この研究会の必要性が高まっています。アフリカの支援業務に関わってほしいという社員も数多くいるので、今後は、オープンマインドで気軽に話せる社風を活かして意見交換をくり返し、事業推進に貢献していきたいと考えています。



ジンバブエ出身のクレオパトラさんもアフリカ研究会のメンバーの一人。多国籍な社員と交流を深めている。



**Frederic HAUSWALD**  
(フレデリック・ハウスワルド)  
GC事業本部 道路技術部

学校卒業後5年間、フランスを中心に構造エンジニアとして、主に橋梁の設計や構造計算に従事。2012年入社後、現在はコートジボワールのプロジェクトに携わる。

## 「個」から「チーム」へ

### ジャカルタ事務所

#### 一人ひとりはいせいで60点でも、みんなで助け合えば90点取れるかも。

**シ** ャカルタ事務所長として、ローカルスタッフを切り盛りし、現行プロジェクトのサポートや新規営業活動を行っています。チームで仕事を進める際のモットーは「一人ひとりはいせいで60点でも、みんなで補い合い、助け合えば90点取れるかもしれない」というもの。欠かせないのは、分からないことは聞き、気づいたことは話すというスタンスです。さらにチームワークを高めるためにも、グループごとに業務確認ミーティングを毎日、事務所全体の朝会を毎週月曜日に実施。また、スタッフの家族も含め総勢75人が参加した1泊旅行を実施するなど、単なる「個」の集まりから「チーム」の醸成を図るために、様々な工夫をしています。

自らの意思で外に働きかけることなくして、真のチーム力は発揮されません。チームワークをより強化していくために、誰もが仕事に対して高いモチベーションを保ち、指示を待つのではなく、自ら考えて積極的に行動を起こすよう、日頃から伝え続けています。



上) ローカル職員とその家族、総勢75名でバス2台を用意して避暑地で懇話。  
下) 旅行先ではサッカーなどのスポーツやレクリエーションを楽しんだ。



**鈴木 力**(すずき・ちから)  
GC事業本部  
ジャカルタ事務所長 兼 トバイ事務所長

海外勤務を志し、16歳の時に交換留学でベルギーへ。大学卒業後にNGO活動などを経て、コンサルタント会社に入社。カブル、イスタンブールやトバイ、コロポ勤務の後、現在はジャカルタで活動する。

## メリハリをつけた施策

### 東北支店

#### 支店の就業環境改善を進めることで全体的にまとまりが生まれています。

**東** 北支店の就業環境改善を進めるため、WGを立ち上げ、さまざまな活動を行っています。特に震災以降は災害復旧や復興道路関連の対応で多忙な日々が続く、モチベーションの維持・向上が不可欠でした。そこで、退社時間の提示や毎週水曜日のノー残業デー、4～5月の連続休暇、定期的な席替えなど、メリハリをつけた施策を実行しています。

たとえば退社時間の提示は、自分自身で時間を宣言することで時間管理の意識を高めるとともに、その時間に退社できるように社員同士が協力し合うことがねらい。コミュニケーションを深めるため内線の使用を禁止し、効率よりもFace to faceを優先させるユニークな試みも採用しています。さらに、オフのコミュニケーションの場として、芋煮会や温泉忘年会、野球観戦といったイベントを定期的で開催していますが、飲み会の出席率は非常に高いですね(笑)。WGがあることで社員が自由に意見を言える機会が多く、支店全体にまとまりが生まれてきたと思います。



野球観戦など定期的にイベントを開催。



後列左から) 審良 郁夫、宮内 健、安藤 壽英、植木 康  
前列左から) 木村 重喜、江藤 和昭、佐藤 雅樹

**木村 重喜**(きむら・しげき)  
SC事業本部 東北支店 技術部 次長

入社後は関西支店に配属され、道路分野を担当する。四国支店、中部支店に異動後、現在は東北支店で復興道路や復興支援関連の事業に携わっている。

## 主導型ビジネスへ向けた勉強会の実施

### 関東支店

#### 全メンバーが上昇志向を持って努力し、成長していくことが大切。

**よ** りよいチームワークを生み出すためには、私自身を含めたすべてのメンバーが上昇志向を持って努力し、成長していくことが求められます。建設コンサルタントは幅広い視点から考えたアイデアを発注者に提供する知的サービス業なので、平日頃からいろいろなものに触れ、勉強することが大切だと考え、河川港湾部では月1回の勉強会を実施しています。

勉強会は、若手を中心とした一般社員の発案でスタートしました。河川や港湾、環境、防災など、多様な専門ジャンルの技術者が属している部なので、お互いに知らない知見や情報を共有することが主な目的です。定期的な勉強会の場を活かし、毎回メンバーが興味を持つテーマを取り上げて学ぶことによって、新たな仕事を生み出そうとしています。部員それぞれの目標はあるものの、チームワークを成り立たせるために、チーム全体のベクトルが同じ方向に向かっていけるようにすること。それがリーダーである私の役割だと思っています。



河川港湾部のメンバーと一緒に。女性社員のアイデアで、社員の誕生日にはケーキを食べるなど仲間意識が強い。



**中尾 毅**(なかお・たけし)  
SC事業本部 関東支店 保全防災事業部門  
副部門長 兼 河川港湾部長

河川・港湾関連のコンサルタント会社で経験を積みOCへ。入社後、関東支店の河川港湾部へ異動となり、現在に至る。